

# 平成 28 年度事務事業評価表 (一般用)

事務事業名		担当部課	部課コード	091200	2998-5300
事業コード	一般廃棄物焼却処理施設運営管理事業(東部クリーンセンター)		東部クリーンセンター施設課		
091204			グループ	施設グループ	
開始年度	年度	終了年度	年度		

事業の概要	事業の種類	自治事務	法定受託事務	法定受託 + 附加	根拠法令
	分野別計画・指針	所沢市一般廃棄物処理基本計画			廃棄物の処理及び清掃に関する法律 所沢市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例
	関連・類似事業	一般廃棄物焼却処理施設運営管理事業(西部クリーンセンター)			
	総合計画の体系	章 環境・自然	節 廃棄物の減量・資源の循環	基本方針	環境に配慮したごみ処理体制の推進
事業開始の背景	廃棄物の処理及び清掃に関する法律により、市町村は一般廃棄物の適正処理に努めなければならない。本事業は、市内の「燃やせるごみ」の安定処理、ごみの減量化、ダイオキシン類などの環境負荷の低減を図るために開始されたものである。				

事業の内容	目的(どのような効果を目指して実施しているのか、具体的に)				
	焼却施設の適正な維持管理に努め、安全かつ安定した廃棄物の処理を行い、環境負荷の低減を図る。				
	対象(誰を、何を対象としているのか)	対象数	単位	平成 26 年度	55,036 t
	所沢市民と事業者から搬出される「燃やせるごみ(東部クリーンセンターの年間焼却量)」を対象とする。			平成 27 年度	57,136 t
事業の具体的な内容及び実施方法					
収集された「燃やせるごみ」および東部クリーンセンターリサイクルプラザより発生する廃プラスチック類は、一時的にごみピットに入れ、クレーンで攪拌し、ごみ質を均一にした後、焼却炉(115t/24h×2炉)で焼却する。焼却灰(主灰)及び集じん灰(焼却飛灰)は、灰溶融炉(30t/24h×2炉)に送られ、西部クリーンセンター集じん灰(飛灰)及びガラスカレットと共に混合溶融してスラグ化し、より一層のごみの減容を行なう。また、ろ過集じん器、湿式洗煙塔、活性炭吸着塔、脱硝反応塔の4つの処理設備により、排ガス中の有害物質の低減を図る。 東日本大震災以降、節電が求められており、再生可能エネルギーとしてのごみ発電が見直されている。また、平成22年10月より廃プラスチックの処理方法の変更を行ったことにより、発電量が増加し、節電策や二酸化炭素削減に寄与している。					

経費	会計種別	一般会計	平成 26 年度 (千円)	平成 27 年度 (千円)	平成 28 年度 (千円)
	予算現額		1,755,464	1,746,803	1,666,731
	決算(見込み含む)		1,713,328	1,687,916	
	(非常勤特別職員) (臨時的任用職員)	( 0.00 人) ( 3.60 人)	( 人) ( 1.00 人)	「財源内訳」について 平成28年度のみ、当初予算の内訳となっています。	
	正規職員人件費	9.55 人 83,286	8.00 人 69,280		
	事業費合計	1,796,614	1,757,196		
財源内訳	一般財源 1,796,614	1,757,196	1,666,731		
	国・県支出金				
	その他( )				

実績	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	H28見込み	将来目標	
	活動実績	焼却量	年間焼却量	t	55,036	57,136	58,000	52,802
		ダイオキシン類測定	測定結果(1号焼却炉)	ng-TEQ/m3N	0.0021	0.0015	0.01	0.01
		ダイオキシン類測定	測定結果(2号焼却炉)	ng-TEQ/m3N	0.0018	0.0018	0.01	0.01

成果	項目名	項目説明	単位	H 26	H 27	0.01	将来目標	
	成果指標	ダイオキシン類測定	排ガス中ダイオキシン類濃度が0.01ng-TEQ/m3N以下であること	ng-TEQ/m3N	目標値	0.01	0.01	0.01
					実績	0.01	0.01	<input checked="" type="checkbox"/> 「実績」拡大図 <input type="checkbox"/> 「実績」縮小図
目標達成状況	どれだけ目標に近づいているかを達成率として示しています		%	達成率	100	100	どちらかをチェックしてください	

改善点	(1)平成27年度中に改善した点(改善内容・その結果について記載してください)		(2)平成27年度成果指標の目標値が未達成の理由・分析	
	ボイラ、エコマイザの清掃を年次点検時に実施していたが、平成26年度より半期ごとに継続して実施している。また経年による機器類(ダクト)へのダスト堆積・付着について、定期修繕作業時に実施しダイオキシン類の低減を図った。			

評価	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 終了	事業実施方法(複数選択可) <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> その他	理由	経年劣化による修繕費用などの増大が見込まれることから、経費節減へ向け、点検結果などによる修繕の内容についての精査を実施する。
	次年度予算 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 現状維持	理由	施設の経年劣化による対策を講じる必要がある。	
評価	(1)平成28年度に取り組んでいる状況		(2)今後の方向性	
	施設の経年劣化による補修費用などの維持管理費の増大が見込まれることから、効率的な運営管理や改善事業を推進していくとともに、ストックマネジメント推進事業において、基幹的設備改良工事を行い、長期包括管理運営など施設の運営に関することを検討し、総合的な見直しを図って行く。		ストックマネジメント推進事業において、基幹的設備改良工事・長期包括管理運営など、施設の性能の維持や効率的な施設運営を検討し実施して行く。	
評価日	H28.8.17	評価者職氏名	課長 吉岡 庄平	

環境影響	有益な環境影響	2-3廃棄物の適正処理	有害な環境影響を及ぼす原因活動	廃棄物の機械処理	規制を受ける環境法令等	有
					緊急事態	有